

その日、そのときに、どんな言葉を抱いているかが、我々の心のあり方や行動に大きな影響を与えるように思う。言葉は、心の糧、活力源になる。貯めておいた言葉を紹介したい。

苦難という経験は大切にすべきですね。苦難は人間を謙虚にする。謙虚になるところからすべては始まると思います。

叱るとは、いま自分の目の前にいるこの人は、絶対にこのままでは終わらないんだ。いまの状態よりも必ずよくなるんだと、その人の可能性を信じることなんです。

おもてなしとは、自分の意を表さないで、さり気なく相手の意を読み取り、相手に気づかれないように先回りして、その意に沿う行動をして差し上げることだと考えています。

逆境に遭うことがすべてかといえば、そうではありません。日頃から様々なことを通じて学んでいるからこそ、逆境から学べるのであって、何の備えもない人が逆境に遭うと、そこで潰れてしまします。やはり大事なことは、日々いろんな人や書物から学んで、それを血肉にしていくことだと思います。

十中八九は失敗。簡単に成功するなんて思ったことがありませんから、策に三策あるべしで、失敗を想定して常に二の矢、三の矢を用意して事に当たるんです。そして万一失敗しても落ち込まない。失敗した理由をしつかり分析したら、もう前のことは忘れてすぐさま二策を打つ。

本当の指導者は、自分の得意なところで誰が優秀かが分かり、その人を登用することができる。そして自分が得意だと分かっているから、他人や部下が優秀に思えて敬意を払うわけです。だから人を導く立場の人は、すべからく人の長所を見るよう努めなければならないと思います。、

私はよく言うのです。「いのち」の「い」は「生きる」こと、「の」は「望み」であると。人間は、生まれて育っていく過程の中で「自分は何になりたいか」と、進むべき方向を自分で決めるわけでしょう。命を与えられた以上は生きるための望み、目的を持たなくてはいけません。

このような珠玉の言葉を知っているかどうか、理解しているかどうか、自分のものにできているかどうかによって、人の生き方は変わってくるように思う。言葉が、活力の源となることもある。